

インドシナ半島の奥地にタイ、ミャンマー、ラオスの3カ国の国境が一点で交わるポイントがある。ゴールデン・トライアングルと呼ばれるタイ最深部の地域で、ラオスと国境を接するメコン川にミャンマーと接するルアック川が合流した部分である。かつては世界最大の麻薬、覚せい剤密造地帯だった場所で悪の巣窟と呼ばれた地域だ。

そんな辺境の地も今ではすっかり開発の手が伸び、ジャングルと3カ国のトライアングル観光をアピールした総合開発が進んでいる。先鞭をつけたのは2003年秋に極上のリゾートを開業したアナタラ・リゾート&スパである。スイートを含め全77室のゴージャスなリゾートで、ゲストのほとんどが欧米からの観光客であり定評あるアナタラスパが人気だ。この異国情緒豊かな3カ国ツアーやジャングルトレッキングに人気が高まり、この時流に乗り06年にフォーシーズンズ・テンテッド・キャンプ(以下FSTC)が鬱蒼とした広大なジャングルの敷地にオープンした。

FSTCは名前の通りすべての客室が「テント」のリゾート&スパである。テントと言ってもそこはフォーシーズンズ流の豪華な内装が施され、完璧な空調と特注の銅製バスタブなど極上の住空間を提供している。FSTCのコンセプトは19世紀のノスタルジックな「冒険旅行」であり、それに合わせて家具類もカスタムメイドのもので統一し、建物もヴィラではなくテントで表現した訳である。また顧客対象は「行動的な大人の旅人」であり、真のセレブ層である「ジェットセッター」をイメージして、すべてが最高のもので提供している。したがって料金体系もオールインクルーシブを採用して、1日3食、空港送迎、象のトレッキング、ゴールデン・トライアングルツアー、スパトリートメントなど「すべて」を含んでいる。うれしいのはアルコール類も余程の高額のワインを除いて無料であり、「Burma Bar」でのカナッペ付きのサンセットドリンクもありがたい。

FSTCはキャンプ敷地内に15棟の豪華テントを配置し、メインダイニングの「Nong Yao Restaurant」、サンセットバーの「Burma Bar」、ワインセラー棟、スパ施設、プール、象のキャンプなどを備えている。ゲストの送迎にも個性が感じられ、チェンライの空港から車で直接キャンプ敷地に乗り入れるのではなく、いったんポート乗り場で下車し専用のロングテールボートに乗り換える。そしてメイン棟近くの船着き場から上陸するという、まさに冒険旅行的な効果を与えている。

FSTCのゲスト数はわずか15棟の最大30名余りに過ぎないが、スタッフの数は膨大な人員を有している。キャンプマネージャーのMr. M・フォルクを筆頭に、スタッフ全員がゲストのあらゆる要望に応えるべくホスピタリティーに徹している。そのような心配りは象使いの末端のスタッフまで感じ取ることができる。非日常の最高のイベントとして、一度はこのようなインドシナ最奥の秘境に自分の身を置いてみるのも一興かと思う。



キャンプ敷地の一番西側に「Burma Bar」がある。ここも草ぶき屋根で吹き抜けのラウンジだ。夕日がルアック川対岸のミャンマー側に沈む最高のサンセットポイントになる



メイン棟にある「Nong Yao Restaurant」。屋根は東南アジアらしい草ぶきで床は厚みのある板張りの吹き抜けのスタイルだ。ディナー時は白リネンのテーブルクロスが掛けられる



レストランの前には独立したワインカーブ棟があり、見事なワイン取蔵コレクションを誇る。希望すればここでワインに囲まれたディナーも可能だ



テントと言ってもこのように豪華な仕様だ。天井からエレガントな蚊帳(かや)がつるされ、ターンダウン後にはベッドに広げられる。テントの壁部分はビニールや網の3層構造になっており、窓はファスナーで開閉する。小高い丘陵面の小径1kmに沿って、15棟のテントが程よい間隔を保ち建っている



全15棟のテントは番号とニックネームが付き、このテントはNo.1で「The Elephant Tent」の名称で54㎡の広さがある。バスルームはリビングと一体化しており、中央にカスタムメイドの銅製のバスタブがある

フォーシーズンズ・テンテッド・キャンプ・ゴールデン・トライアングル

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリアが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。

これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



メイン棟前面にあるテラス席。目の前に見えるルアック川の対岸はミャンマー領で、右側数km先を下るとメコンの大河と合流しラオスとの国境に達する。ゴールデン・トライアングルのハイライトだ



二つのプールの周りにはデッキチェアではなく、ゴージャスなツインベッドが用意されている



フリーフォームプールと、左側には連結しているワールプールが見える。地元産の大きな御影石とチークの丸太で造園されていて、実に気持ち良いプールだ



幻想的なジャングルに囲まれた「San Valley」に架かる高さ18mのつり橋。橋の下の深谷には小径が続いており、キャンプ内に点在するテントを結んでいる



Four Seasons Tented Camp Golden Triangleのメイン棟。空港からキャンプ近くの船着き場まで車で行き、ロングテールボートに乗り換えて川からキャンプ地上陸する



ミャンマーと国境を接するルアック川を臨むテラス席。国境を越えて歩いてくると生暖かい風が心地よい。この下にボート船着き場があり遊歩道で結ばれている



タイ国立ゾウ保護センター(TECC)の指導と専門家のケアを受けて、キャンプ内には10頭以上の象が飼育されている。このように自然なかたちで象と触れ合うことができる

筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけでなく、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。
www.jhrca.com/worldhotel

